

第42回歴史学入門講座 2026年度

排外主義の時代に歴史学ができること

—人種・ジェンダー・エスニシティの方法—

2026年8月1日 13時30分～16時30分

講師：貴堂嘉之（一橋大学大学院社会学研究科・教授）

自己紹介



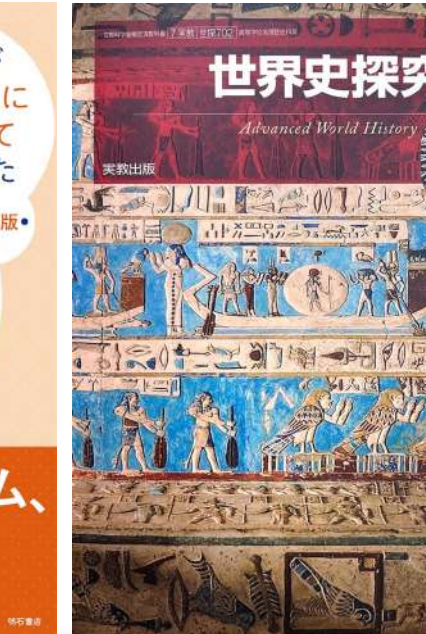
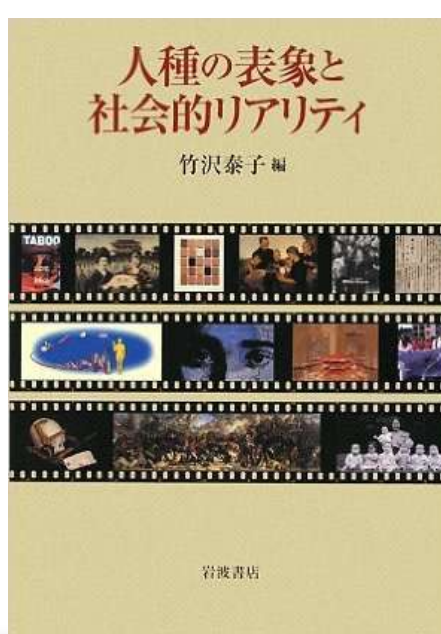
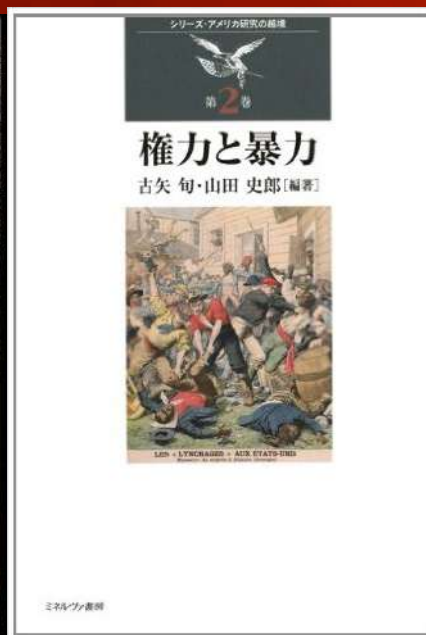
- ・ 一橋大学大学院社会学研究科で
アメリカ史/アメリカ研究を担当
- ・ 専門:アメリカ移民史/人の移動史、
南北戦争・再建期の政治社会史、
トマス・ナストの風刺画研究、アメリ
カ史教科書、高校世界史教科書の
執筆など



『移民国家アメリカの歴史』岩波新書、2018

『シリーズ アメリカ合衆国史② 南北戦争の時代 19世紀』岩波新書、2019

『世界史の考え方 シリーズ 歴史総合を学ぶ①』岩波新書 第三章、2022





タンザニアのザンザリビにある東アフリカ奴隷貿易展示
【撮影・小林和夫】



ガーナにあるエルミナ城。西アフリカ最大の奴隷貿易拠点
【撮影・小林和夫】



タンザニアの奴隷貿易の道(マンゴーの道)。今も人々の生活を導く
【撮影・高橋秀樹】

○カバー写真

表◆英領西インド諸島(アンティグア)の農園での奴隷の作業風景(ウィリアム・グラーヴ作、1823年)

【出典:British Library, Acc. #1786.c.9, plate III】

裏◆19世紀のブラジル、リオデジャネイロの奴隷貿易の様子(「上陸」ヨハネス・ハルゲンダス作、1835年)

【出典:João Mauricio Rugendas, Viagem pitoresca através do Brasil, Belo Horizonte, São Paulo: Editora Itatiaia, Editora da Universidade de São Paulo, 1979】

66章

奴隷制・奴隷貿易を知るための66章

清水和裕
貴堂嘉之(編集)
鈴木英明

奴隷制・奴隷貿易を知るための66章

清水和裕
貴堂嘉之(編集)
鈴木英明

明石書店

バーコードはいる

66章

奴隷制・奴隷貿易を知るための66章

清水和裕
貴堂嘉之(編集)
鈴木英明



リオデジャネイロ、ヴァロンゴ埠頭(世界遺産)の奴隷貿易モニュメント
【撮影・飯本新彦】



サンパウロのパンデランデ像。先住民の奴隷狩りを行った殖民者の英雄像は同じ道に置かれている
【撮影・鈴木茂】



奴隷女性が中絶薬として用いたとされるオウコチョウ(グアドループのマリー・ガランデ像) 【撮影・貴堂嘉之】

明石書店より、2026年6月刊行

『中央公論』7月号 特集建国250年アメリカ再入門 「南北戦争の「戦後」を生きるアメリカー「第三の再建」か、さらなる分断か」
『歴史地理教育』7月増刊号 特集アメリカ合衆国建国250年ーいまと過去を知る 総論「アメリカ建国250年ー現代アメリカの歴史的基層を考える」

今日の講演内容 「私たち」の共同体の作られ方

1. 排外主義とは何か
2. 排外主義の可視化の方法
3. 歴史学の方法
 - ①近代国民国家・ナショナリズム論 —「私たち」の境界—
 - ②グローバルな人の移動史
 - ③アメリカ合衆国のケース 移民国家と奴隷国家
 - ④ナショナリズム論を感情史に接続する
 - ⑤「人権」「人道主義」の歴史に接続する
4. 歴史学は排外主義にどう向き合うのか—博物館展示という歴史実践

1. 排外主義とは何か

○現代世界で広がる排外主義

- ・グローバル化による格差拡大、移民・難民の流入による社会不安、「負け組」の意識とステープゴート、治安や社会統合の不安
- ・SNSによる分極化、エコチェンバー現象、「怒り」の動員⇒トランプ(米)、ルペン(仏)、オルバン(ハンガリー)など

○日本での排外主義

- ・埼玉県川口市在日クルド人をめぐる騒動
- ・在特会などによる在日コリアンを標的としたヘイト
- ・外国人観光客(オーバーツーリズム)に対する排除意識

○排外主義をめぐる議論の難しさ

- ①「善悪」の問題/正義, correctnessの議論になりやすい 「差別はいけない」
- ②個人の「心」の問題に還元されやすい
- ③現代政治の文脈に引きつけて論じられやすい
- ④人種問題に限定されやすい

歴史学が問いたいのは 国民の「境界」形成、「私たち」の共同体、統合と分断

- ①なぜ排外主義・差別は繰り返されるのか、偏見はいかに形成されるのか。
加害者を悪者・悪魔化せずに、理解を試みる（ホックシールドの『壁の向こうの住人たち』）
- ②「心」の問題ではなく、制度・国家・感情の政治化・歴史認識の問題
- ③中長期的な歴史的プロセス
- ④多様な加害と被害（宗教、国籍、民族、階級、ジェンダー・セクシュアリティなど）
「私たち」と「彼ら」の境界形成 人種・ジェンダー・エスニシティ・・・いくつもの「自分」

○排外主義の定義

ジョン・ハイアム (John Higham) 排外主義 Nativism 研究の古典

Strangers in the Land: Patterns of American Nativism, 1860-1925 (1955)

「排外主義とは、その集団が外国（あるいは「非アメリカ的」なもの）と結びついていると見なされることを理由として、国内の少数者に向けられる強い敵意である」

・アメリカ生まれvs.移民（外国との結びつき） ・非アメリカ的（宗教・言語・習慣・政治思想）

典型例 ①Anti-Catholicism 反カトリック、アイルランド系移民敵視

②Anti-Radicalism 社会主義・アナーキズム・共産主義への恐怖 東欧系移民敵視

③Anglo-Saxon racial nationalism アングロサクソン人種主義 WASP中心主義

⇒社会的感情（不安、恐怖、敵意）が政治運動・法律・移民制限へ

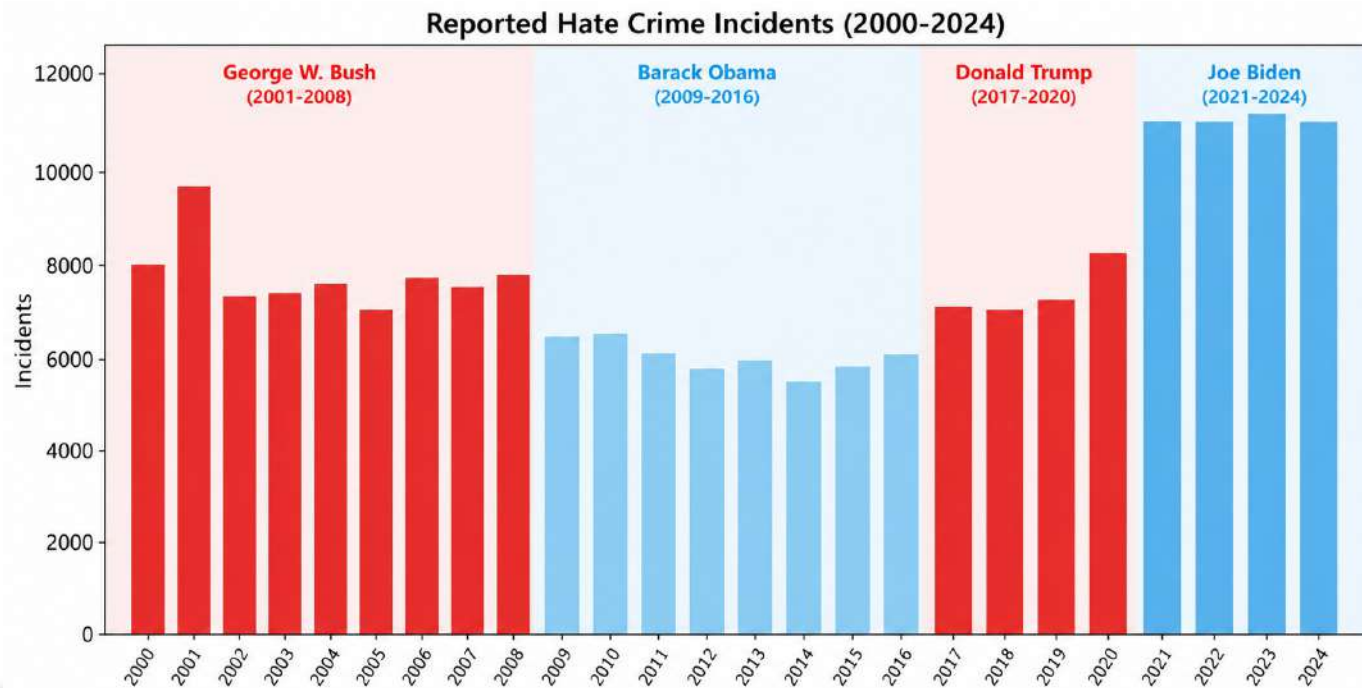
ハイアムの限界：白人中心（黒人、先住民、メキシコ系、アジア系×）、

国民国家中心（グローバル化、人の越境、帝国×）、人種・ジェンダー分析が弱い

2. 排外主義の可視化の方法 ○アメリカの場合

ヘイトクライム(憎悪犯罪)の撲滅に向けた動き・・・ポスト公民権運動期の80年代に概念は定着。「現代のリンチ」。犯罪の社会的影響にあわせ量刑重く。

「人種、エスニシティ、宗教、出身地、在留資格、ジェンダー、性的指向、ジェンダー・アイデンティティ、障がい、年齢などを理由に、個人や集団に対する敵意・偏見を動機とする暴力行為」



問題点

- ・被害届が出ない、警察が「ヘイト」認定しない。
- ・州によって基準が違う。
⇒NYやCAが多く、南部諸州は過小評価へ

出典：FBI Uniform Crime Reportingより作成

○日本の場合

1990年からヘイトクライム統計法で可視化を目指したアメリカと比べると

⇔日本は、排外主義を可視化する制度が整っていない

- 包括的な差別禁止法が存在しないことが大問題

パリ原則にもとづく独立した国内人権機関は現在も設置されず。

⇐国連の人種差別撤廃委員会から繰り返し是正勧告

- 2016年 ヘイトスピーチ解消法 理念法で罰則なし、教育・啓発中心

- 「排外主義」の手がかり

世論調査(移民・外国人労働者・難民)

新聞・雑誌・書籍、SNSなどの言説

制度— 移民法・国籍法・外国人登録制度・収容制度など

○日本の場合

三 記事・株価を検索

日本経済新聞

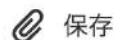
朝刊・夕刊 LIVE Myニュース 日経会社情報 人事ウオッチ Nikkei Asia NIKKEI Pr

トップ ▾ 速報 ▾ ビジネス ▾ マーケット ▾ 経済 ▾ 国際 ▾ オピニオン ▾ もっと見る ▾ | #Mythos (3)

「排外主義」兆候、1936年ごろから 東京理科大が戦前の新聞分析

サイエンス [+ フォローする](#)

2026年7月20日 5:00



保存



東京理科大学は戦前の日本の新聞記事約30万件の記事を分析し、他国を敵視する「排外的ナショナリズム」が現れていた時期を推察した。1912～43年の新聞54紙の記事を分析すると、1936年ごろから外国の言葉を避けようとする傾向がみられた。

○東京理科大 松本朋子先生の研究 AI時代の新しい歴史学

1912年～43年の新聞54紙に掲載された約30万件の記事分析

外国の地名が漢字かカタカナ表記にされる現象に着目 「ワシントン」⇒「華盛頓」など

3. 歴史学の方法

①近代国民国家・ナショナリズム論 —「私たち」の境界—

○排外主義とは

「私たち」=「国民」とは誰なのか/誰が共同体の一員なのか/誰を埒外に置くのか

この「国民」境界形成をめぐる政治、ナショナリズム論として理解できる

○1990年代の国民国家論を振り返る

ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』のインパクト

- ・制度論から「想像された政治的共同体」としてのネーション
- ・同胞愛＝ナショナリズムの暴力性の解明
- ・国民化の回路の研究量産、**出版資本、博物館、国勢調査**

⇔包摂に主眼が置かれ、排除の力はあまり議論されず



○「私たち」を問うことの歴史的意義

歴史総合の教科書 アメリカ独立宣言やフランス人権宣言の歴史的問い

独立宣言(1776)「われわれは、次の真理を自明のものと信じている。すなわち、すべての人間は平等につくられている。人はすべてその創造主によって、誰にも譲ることのできない一定の権利を与えられており、その権利の中には、生命、自由、そして幸福の追求が含まれている」

Q:この「すべての人間」には誰が含まれていたでしょう？

財産を持つ白人男性を想定 ⇔ 黒人奴隷、女性、先住民、財産を持たぬ白人男性・・・

フランス人権宣言(1789)「・・・仏人民の代表者たちは、人権に関する無知、無視、あるいは軽蔑が公衆の不幸と政府の腐敗の唯一の原因であることを考慮して、厳粛な宣言において、人間の生得の、譲渡しえない神聖な権利について述べることを決意した」

⇒アメリカの歴史は、「すべての人間」=「私たち、国民(人民)」の範囲を拡大していく歴史的過程 包摂と排除 人種・ジェンダー・エスニシティ レイシズム 移民排斥・・・

⇒あらゆる歴史がこの視点から問い直せるのではないか

②グローバルな人の移動史

○近代国民国家分析の前提は、限りなく永住・定住モデル、しかし、「長い19世紀」(仏革命～一次大戦)までの近代世界は「移民の世紀」&大西洋奴隷貿易の不自由な人流混在

①黒人奴隷 1252万(16世紀～19世紀末) 「長い19世紀」のみで588万(約47%)

②ヨーロッパから新大陸への移民 5300万人(18～19世紀)

③アジアからの契約労働者・自由労働者 3000万人(19～20世紀)

・このグローバルな人流が国民国家形成・帝国/植民地形成にどのようなインパクトを与えたのかの総括はいまだなされていない。研究史の分断が顕著なところ。

* 米国史であれば黒人奴隷史と移民史の分断、移民史であれば欧・亜・ラの分断

* 日本近代史であれば移民(非勢力圏)と植民・開拓民(勢力圏)の分断

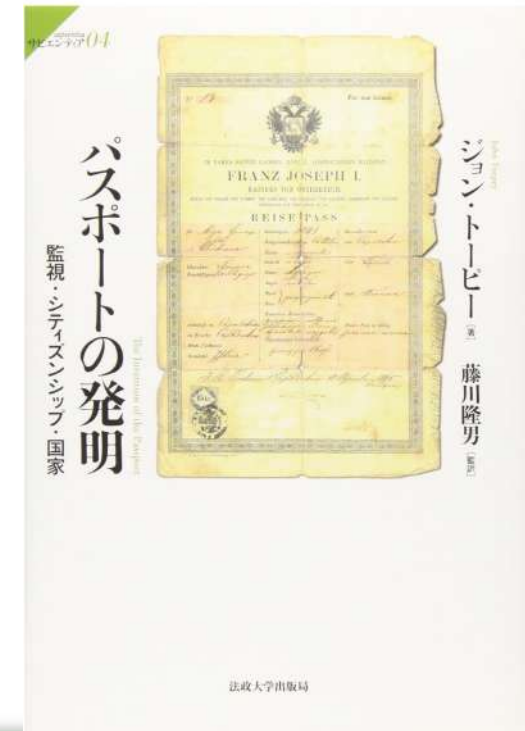
* 地理的には、環大西洋世界と環太平洋世界、インド洋海域などの分断

* 自由移民と強制移住、難民との分断

⇒「近代」の見直し、自由と不自由の共存、「長い奴隷解放期」としての「近代」

○移民史からのB.アンダーソン批判 「想像するだけでは国家は誕生しない」

- ・国境における人の管理を国家が担い、文書化する行政が確立することが指標(パスポートや身分証明書)
- ・国境管理、国境警備、移民・難民行政の段階的確立過程に注目
- ・「われわれ意識」も、パスポートなどの身分証明書こそが、国民/移民のアイデンティティ
- ・国内定住者の「われわれ意識」＝国民の主体性に注目するだけでなく、グローバルな移住が「近代」や「国家」を形成してきた過程に注目することで、新たな国民形成史が描けるのではないか。排外主義の問題群もこの分析が重要ではないか。



③アメリカ合衆国の場合 移民国家(理念国家)と奴隷国家

○「移民国家アメリカ」とは何か？

●民族国家と移民国家の違い

- ・国民国家としての政治的単位の土台となるべき「民族的単位」の欠如 / 特定の「民族的起源」を基盤にできない
- ・統合の核は自由や平等といった普遍理念、独立宣言や憲法、「被治者の合意」/有徳な市民の共和主義イデオロギー

←英領植民地起源の国でありながら、イングランド出身者は建国当時の白人人口の6割弱、総人口の2割は黒人奴隷。
その後、総人口に占めるイングランド系の割合は、1920年には4割弱、今日では1割強。

⇒ヨーロッパ的「民族国家」としてではなく、移動・移住が作り出した世界史上にも特殊な「移民国家」として誕生
「民族国家」 血統主義 ⇔ 「移民国家」 出生地主義

●歴史学における移民の意義づけ

Oscar Handlin, *The Uprooted: The Epic Story of the Great Migrations that Made the American People* (1951)

「私はアメリカの移民の歴史を描こうとし、移民こそがアメリカ史そのものであることがわかった」

⇒「移民の歴史＝アメリカ史」という等式 「国民の物語」national historyとして定着
ジョン・F・ケネディ 『移民の国 A Nation of Immigrants』(1958) 移民の「貢献」がアメリカを作った

○歴史的起源としてのピルグリム・ファーザーズ

神話的国民の物語

17世紀初頭のイギリスでの宗教弾圧を逃れ、信仰の自由をもとめた宗教的な一団がイギリスのプリマスを出発し、メイフラワー号に乗ってアメリカ大陸を目指した。1620年の冬ニューイングランドに到着した彼らは、プリマス・ロックに初めの第一歩を踏み降ろし、その地をプリマスと名付け、プリマス植民地を設立。上陸前に、入植民の間で取り交わされたメイフラワー・コンパクト（盟約＝「契約により結合して政治団体をつくり、我らの共同の秩序と安全とを保ち進める」）はのちのアメリカ合衆国憲法の基礎となった。

その冬の厳しい気候に耐えられずメンバーの半数が餓死したが、二年目の秋には豊かな収穫に恵まれ、その間援助を受けたインディアンを招いて感謝の機会を持ち、それが今日の感謝祭に直接つながる起源となっている。

（大西直樹『ピルグリム・ファーザーズという神話―作られた「アメリカ建国」』講談社選書メチエ、1998 より）

・19世紀になって作られた神話（自己犠牲、苦難と忍耐、理想主義の最初の灯火、先住民との友好的関係）

…国民的合意形成に便利な神話

⇒入植者102名の内訳：「聖徒」（男性17人、女性10人、子供14人）計41人；

「よそ者」（男性17人、女性9人、子供14人）計40人、残り「年季契約奉公人」indentured servants 21人

* settler colonialism アメリカ人（＝「市民」）の外側にいる先住民にとって白人の入植活動は常に暴力的

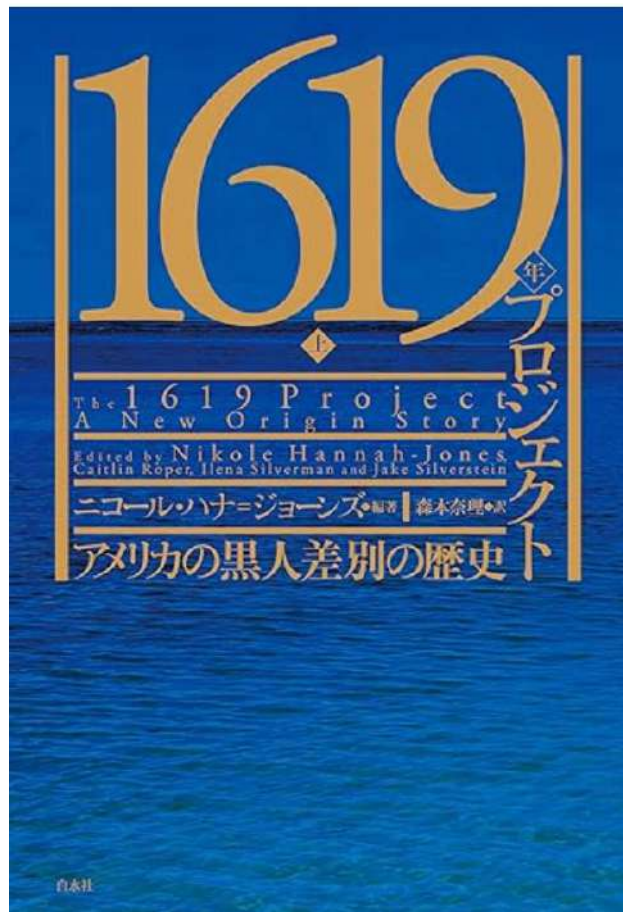
（先住民の土地でありながら）「無主の地」とみなし西部開拓。正当化にManifest Destiny

⇒アメリカ合衆国の建国は、この先住民に対する殺戮・暴力の忘却の上に成り立っている

・なぜ最初の恒久的植民地ジェームズタウン（1607年）は神話化しなかったのか？ →黒人奴隷制の起源（1619年）

オランダ船から20人の黒人 （1619プロジェクト NYTの企画⇒歴史教育の実践へ）邦訳刊行

1619年プロジェクト



1776年のアメリカ建国史を黒人奴隷制と差別の視点から捉え直し、最初のアフリカ系黒人奴隷が到着した「一六一九年がアメリカの真の始まり」と位置づけ、学者・詩人・作家・ジャーナリストによる、多様なテーマ（人種、政治から音楽、正義まで）の18本の論文・詩・短篇を編んだ歴史書。

トランプ大統領が「有毒なプロパガンダ」と非難し、ハリス前副大統領が「アメリカ史に絶対に必要な清算行為」と称賛し、大反響と歴史修正主義を巡る大論争が起きた話題作。

編著者はニコール・ハナ＝ジョーンズ 『NY・タイムズ・マガジン』常勤ライター、ハーワード大学教授。人種的不正義の報道、学校での人種隔離の存続の研究に取り組んでいる。

「移民国家アメリカ」の神話が隠蔽したもの ーアメリカ合衆国の奴隷制とレイシズムー

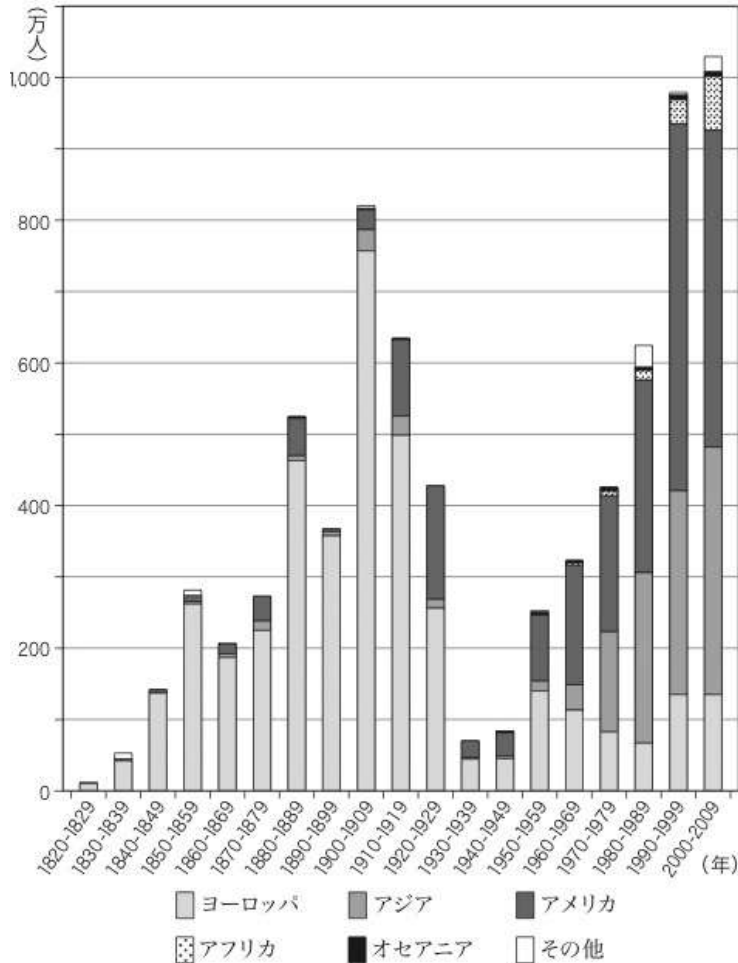


図0-2 アメリカ合衆国への出身地域別移民統計(1820-2009年)

(『移民国家アメリカの歴史』 7頁)

●建国時からアメリカは「移民国家」だったのだろうか？

- ・独立後～1820年までの約40年間 移民推計 25万人
- ・移民統計は1820年スタート
- ・植民地時代 ニューイングランド以南の入植者の半分以上は年季契約奉公人
⇒連邦政府が移民奨励策に転じるのは、共和党リンカン政権以降。

●植民地時代～1808年(奴隷貿易廃止)の黒人奴隷の輸入数は、わずか30.5万 (アフリカから流出した総数の2.4%) しかし、国内奴隷人口は

	奴隷	全人口	黒人比率
1790	697,681	3,929,214	19%
1820	1,538,022	9,638,453	18%
1840	2,487,355	17,063,353	17%
1860	3,953,760	31,443,321	14%

19世紀～綿花生産の増加に伴い、奴隷人口急増



独立宣言や合衆国憲法に謳われた自由や平等の理念

⇒ Civic Nationalism

理念国家としての姿

しかし、合衆国像としてcivic nationalismや理念国家を強調することで、逆に見えなくされてきたものがあるのではないか？

それが、奴隷制とレイシズム

○赤丸をつけた政治家の共通項は？（独立宣言の審議）

建国～南北戦争の期間、実質的に連邦政治や連邦最高裁の中枢で権力を握り続けたのは、南部の奴隷制プランテーションの主人の政治家たち (12人の大統領中、10人が奴隷所有)

	名前	政党	就任年	奴隷所有	出身地・地盤
第1代	ジョージ・ワシントン	(連邦派)	1789	○ 317名	ヴァージニア
第2代	ジョン・アダムズ	連邦派	1797	×	マサチューセッツ
第3代	トマス・ジェファソン	共和派	1801	○ 600名	ヴァージニア
第4代	ジェイムズ・マディソン	共和派	1809	○100～200名	ヴァージニア
第5代	ジェイムズ・モンロー	共和派	1817	○75～200名	ヴァージニア
第6代	ジョン・Q・アダムズ	共和派	1825	×	マサチューセッツ
第7代	アンドリュー・ジャクソン	民主党	1829	○150～300名	テネシー
第8代	マーティン・V・ビューレン	民主党	1837	○1名	ニューヨーク
第9代	ウィリアム・H・ハリソン	ホイッグ党	1841	○12名	ヴァージニア
第10代	ジョン・タイラー	ホイッグ党・民主党	1841	○70～200名	ヴァージニア
第11代	ジェイムズ・ポーク	民主党	1845	○25～56名	テネシー
第12代	ザカリー・テイラー	ホイッグ党	1849	○150～300名	ヴァージニア

● 建国来のレイシズムの隠蔽

1. 移民国家アメリカの最重要法体系 帰化法に埋め込まれたレイシズム

1789年、1791年 外国人は2年経てば市民権取得 1793年—5年間

1798年—14年間に延長/外国人取締法 ⇐フランス革命後の混乱

1802年—5年間に短縮

1790年帰化法—帰化できる者を「自由な白人free white」に限定

「アメリカ市民であること」=「アメリカ人であること」=「白人であること」の等式

白人共同体としての法的基礎

⇒ この法律は、1952年のマッカーラン・ウォルター法成立まで継続

世界中から移民が集まるアメリカ ⇒ 「人種」の境界決定の関所の役割

国民の境界「白人性whiteness」が国民の包摂/排除の争点 ⇐ホワイトネス研究

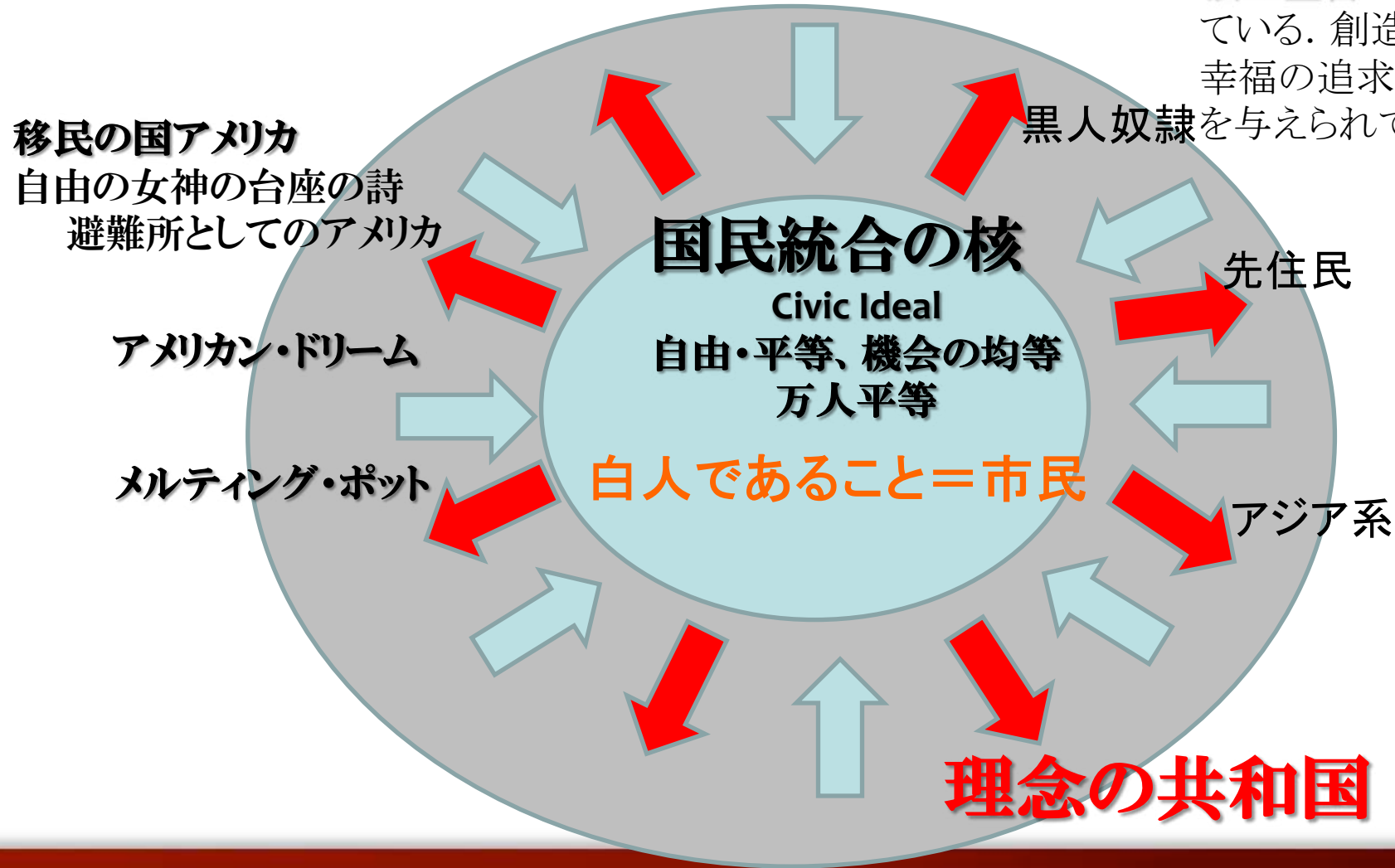
白人性が自明でなかった移民集団 アイルランド系、イタリア系、ユダヤ系、アジア系など

理念国家＝移民国家Civic Nationalism(包摂)
人種国家＝奴隷国家Racial Nationalism(排除)



アメリカ人の「国民」の境界形成
建国神話、制度、感情・・・

独立宣言「すべての人間は平等につくられている。創造主によって、生存、自由そして幸福の追求を含むある侵すべからざる権利を与えられている」



④ナショナリズム論を感情史に接続する

○「私たち」という共同体の作られ方

民族国家＝血統主義の国

移民国家＝出生地主義の国

○歴史学における感情史への注目

20世紀の歴史学一人間を「合理的に利益を計算する存在」と

して描く傾向、感情や現状の価値観と切り離す手法

⇒人間は物語を信じ、感情に動かされ、共同体への帰属意識

を求める存在でもある。怒り・喜び・悲しみ・嘆き

B.アンダーソンの「想像の共同体」「われわれ意識」の議論と
つながる

感情史とは何か

What is the History of Emotions?



バーバラ・H.ローゼンワイン
リッカルド・クリスティアーニ

伊東剛史／森田直子／小田原琳／館 葉月……訳

感情への眼差しは
歴史学をいかに変えるのか？



岩波書店

いま最も注目されている感情史の魅力と最新動向を
「科学」「アプローチ」「身体」「未来」の切り口から紹介。
学際研究への示唆に富む最良の入門書。

定価(本体 2700 円＋税)

・国民の共同体は、「感情の共同体」(ローゼンワイン)でもある
「私たち」は何を恐れ、何に怒り、何を誇りに思うのか
共同体ごとに、どの感情を表現し、どの感情を抑えるべきか
という規範を共有している

- ・外国人を恐れること
- ・国を誇ること
- ・裏切り者に怒ること

⇒排外主義とは「共感の範囲」を縮める政治

・「感情の共同体」の作られ方

18世紀・19世紀・20世紀・・・新聞・小説・ラジオ・テレビ

21世紀・・・SNS, YouTube, TikTok, X(旧Twitter)など



⑤「人権」「人道主義」の歴史に接続する「共感」の範囲を広げる？

「私たち」の共同体を広げるもう一つの共感原理

○西洋の自然権思想を源流 ロック 生命・自由・財産への権利

⇒リン・ハント 他人にこれらを認めようと考えたのはなぜ？

18世紀後半：書簡体小説の普及により他人の痛みを想像

できるようになった 人権＝法律 + 共感能力

「想像された共感imagined empathy」 大西洋世界の人権理念

・・・国籍や身分、階級や性別を超えて、他者の経験に対して

同じ「人間」として感情移入できる「想像された共感」

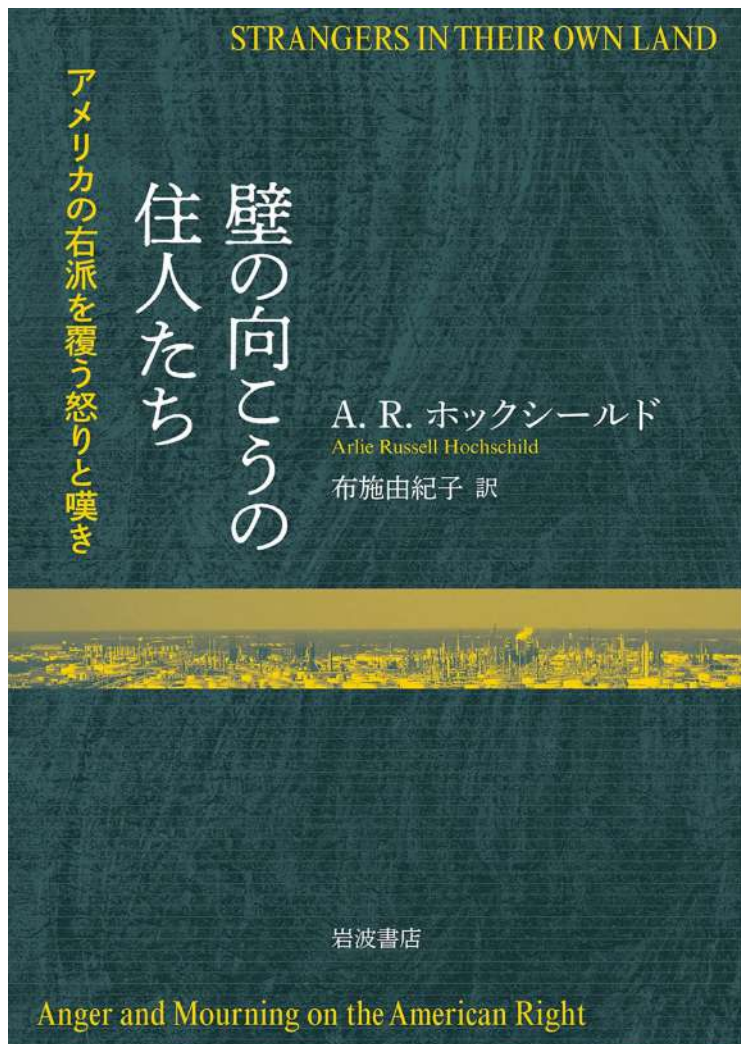
⇒国境を超えた人権理念の感情的基盤

拷問の禁止、奴隷制廃止運動

* 遠距離の苦しむ人々(植民地)、非対称な支援者・被支援者



(参考)隣接領域 感情社会学の世界 A.R.ホックシールドの研究群



STOLEN PRIDE Loss, Shame, and the Rise of the Right

A. R. ホックシールド
布施由紀子=訳



石炭産業の空洞化が生んだ、
男たちの誇りの空洞化……。
「喪失」を埋めたのは、
アルコール、薬物、
そして政治だった。

ストップ・ザ・スティール
盗みを止める！

南部ルイジアナのティーパーティの人びとを訪ねた『壁の向こうの住人たち』から八年、青いカリフォルニアから通々、赤いアラバマの山々をめぐる、ラストベルトに生きる人びとの人生の物語を聴く。

盗米を掘るかす極右団体のデモを認めるべきか、すべては静かな街の市支配人のオフィスに伝わってきた。よそ者だとわから一本の電話から始まった。

岩波書店



4. 歴史学は排外主義にどう向き合うのか—博物館展示という歴史実践

○「私たち」の共同体の作られ方を検証する歴史学の方法をみてきた

国民国家論・ナショナリズム論、移民史・奴隷制史、感情史、人権・人道史

歴史学は「私たち」を問い続ける学問 分断や差別を乗り越える

○人種・ジェンダー・エスニシティの方法

- ・属性を本質として捉えない
- ・境界は歴史的・社会的に形成されるものとする
- ・「私たち／彼ら」の境界が、いつ、どのように作られたかを問う
- ・その境界を支える制度・感情・言説・記憶を分析する
- ・境界が変化しうることを歴史から示す

○もしあなたが学芸員なら、どのような博物館展示を企画しますか？

・博物館は「過去を保存する場所」ではなく、「市民社会との対話の場」であるからこそ、「私たち」の歴史を展示する場

展示をみるポイント ⇒ 展示をつくる時のポイントにもなる

- ①誰が主人公か
- ②「私たち」は誰か
- ③誰が見えなくなっているか、何が隠されているか
- ④感情はどこへ向けられているか(国民の物語、共感、誇り、憤り…)

○アメリカ スミソニアン博物館の展示等をめぐる政治闘争

第1期 トランプ政権(2017～2021)



アメリカ歴史博物館 日系人強制収容の展示「不正を糾す」 大統領令9066号
1988年レーガン政権が公式謝罪

第2期 トランプ政権(2025～2029)

大統領令14253「アメリカ史に真実と正気を取り戻す」

⇒スミソニアン協会の展示が「人種を中心としたイデオロギーに染まり」米国の伝統を「本質的に人種差別・性差別、抑圧的、あるいは埋め戻せないほどの欠陥」として展示していると非難



○日本や海外の移民博物館

①JICA海外移住資料館(横浜)

初期移民、ハワイ、ブラジル、海外雄飛、苦労・成功物語

②日本ハワイ移民資料館(周防大島)

送り出し地域社会、故郷とのつながり

③全米日系人博物館(米国・ロスアンゼルス)

現在、全面リニューアル中、それまでは日系人苦難の歴史

リドレス運動(排斥、強制収容、リドレス、1988年市民的自由法)

④日本移民資料館(ブラジル・サンパウロ)

日系社会(コロニア)、勝ち組・負け組、デカセギ(日本再定住)



(左上) 周防大島 日本ハワイ移民資料館



(右上) サンパウロ日本移民資料館
(真ん中) 同上

ご清聴ありがとうございました。